

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第1四半期累計期間において、本四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生、又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績の分析

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、輸出環境の改善や個人消費の回復により、企業収益に持ち直しの動きが見られるなど、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。

このような状況のなか、当社は新機種の拡販、新たなマーケットの開拓、海外販売体制の強化に取り組んでまいりました。

当第1四半期累計期間における売上高につきましては、包装システムの販売実績が増加したことから、前年同期に対し23百万円の増収となりました。

収益面につきましては、売上高の増加に伴い、売上総利益は前年同期より増加いたしました。営業利益及び経常利益につきましては、売上総利益の増加に加え、販売費及び一般管理費を前年同期より抑制した結果、前年同期に対し増益となりました。

以上の結果、当第1四半期累計期間の売上高は984百万円(前年同期比2.4%増)、営業利益47百万円(前年同期比47.4%増)、経常利益48百万円(前年同期比34.4%増)、四半期純利益35百万円(前年同期比32.8%増)となりました。

当社は、自動包装機械製造事業の単一セグメントであります。単一セグメントを品目別に分類した場合における品目別売上高の概況は次のとおりであります。

給袋自動包装機は、販売台数が減少したことから、売上高は379百万円(前年同期比35.4%減)となりました。

製袋自動包装機は、平均価格が増加したことから、売上高は145百万円(前年同期比59.2%増)となりました。

包装関連機器等は、包装システムの販売実績が増加したことから、売上高は222百万円(前年同期比235.1%増)となりました。

保守消耗部品その他につきましては、消耗部品の販売実績が増加したことから、売上高は237百万円(前年同期比9.7%増)となりました。

## (2) 財政状態の分析

### (資産)

当第1四半期会計期間末における流動資産の残高は3,541百万円となり、前事業年度末に比べて215百万円減少いたしました。この主たる要因は、売上債権及びファクタリング方式により譲渡した売上債権の未収額の合計額が243百万円増加したものの、現金及び預金が439百万円減少したこと等によります。

固定資産につきましては、当第1四半期会計期間末残高は920百万円となり、前事業年度末に比べて16百万円増加いたしました。この主たる要因は、有形固定資産が10百万円増加したこと等によります。

この結果、総資産は、前事業年度末に比べ199百万円減少し、4,462百万円となりました。

### (負債)

当第1四半期会計期間末における流動負債の残高は1,502百万円となり、前事業年度末に比べて199百万円減少いたしました。この主たる要因は、仕入債務が270百万円減少したこと等によります。

固定負債につきましては、当第1四半期会計期間末残高は88百万円となり、前事業年度末に比べて3百万円減少いたしました。

この結果、負債合計は、前事業年度末に比べ203百万円減少し、1,591百万円となりました。

### (純資産)

当第1四半期会計期間末における純資産の残高につきましては、利益剰余金の増加等により、前事業年度末に比べ4百万円増加し、2,870百万円となりました。

## (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期累計期間において、当社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

## (4) 研究開発活動

当第1四半期累計期間における研究開発費の総額は44百万円であります。

なお、当第1四半期累計期間において、当社の研究開発活動の状況に重要な変更はありません。